

# 教育

edu@asahi.com

日曜～火曜掲載

## 再び渡米 僕の生きやすい場所

いま No.1649  
子どもたちは  
飛び立って輝く ③



年未年始に帰国し、アメリカで出会った東京の友達のところへ向かうコウタさん＝東京都内

界が知りたい」。先生に相談すると、日本の制度では難しいなどと言われた。

「海外に行こうかな」

息子の言葉に、海外に住んだ経験もない両親は驚いた。学校に行けなかった子が海外でやっていけるのか。母(46)は不安だったが、「本人が納得するなら」とネットで調べ、「ISC留学ネット」の紹介で、アメリカに2週間の短期留学をさせてみた。帰国したコウタさんは、「楽しかった。また行きたい」と目を輝かせた。「英語の授業も新鮮だったし、何もわからない状態で1人きりで生活することにむしろワクワクした」

母は困惑した。「多額の費用も必要だし。普通に高校から大学へ進んで、就職してほしかったので」。しかし、本人の意志は固く、渡米。語学学校を経由して、コロラド州の高校に編入した。昨年夏から短大に通っている。「僕はアメリカの方が生きやすい」とコウタさんは言う。

日本に壁にぶつかった子を、海外に出して大丈夫か。そう尋ねると、母は「不安でも出した方がいい」と即答した。「どこの国だろうと、どこかに居場所があれば、親子ともに安心して生きられるから」

(宮坂麻子)

◆「飛び立って輝く」はこれで終わり、次回は16日に始めます。

「日本にいた時は、誰かと常になきやいけなない感じがした。1人でいるのが許されないような空気があった」

岡山県出身のコウタさん(19)が、アメリカへ飛び立ったのは、高2の夏だった。

小学生時代から学校は好き

になれなかった。登校をしづる気がなくなった」。

中学は適応指導教室などに通って卒業し、大学付属の私立高校機械科に進学した。機械科の学び自体は興味があったが、通ううちにそれ以外の小食なのに給食を全部食べるまで残らされたり、集団行動を強いられたり。中学に入っ

てしばらくたつと、「登校す